

KINGCA WEEK2023 に参加して

大阪公立大学大学院医学研究科 消化器外科学 三木友一朗

この度、日本胃癌学会の海外学会参加補助制度により、2023年9月11日から13日まで Ajou 大学病院において Master Class、14日から15日まで KINGCA WEEK 2023 に参加させて頂きました。

2019年に海外留学から帰国後、比較的すぐにコロナ禍が始まったこともあり、個人的には4年ぶりの海外渡航となりました。韓国では海外からの観光客を呼び戻すため、日本からの渡航者について VISA の取得を必要としない措置をとっており、航空券とパスポートがあれば渡航できる状態で、準備等は比較的容易でした。空港から Ajou 大学のある水原（スウォン）も快適なバスで1時間程度で到着することが出来ました。



Ajou 大学に着くと、Jeong Ho Song 先生が病院内を案内して頂き、病院長も兼任されている San Uk Han 教授の病院長室で早速歓待して頂きました。その後、1日

目は Hoon Hur 教授 の LDG があり、その見学を行いました。臍部にシングルポート用のデバイスを装着し、患者右側に2カ所のポートを留置する、3ポートでの LDG を

行っており、現在 Conventional な 5 ポートの LDG とのランダム化比較試験を行っているとの話をお聞きしました。これまでもいくつかの KLASS 試験を完遂してきた韓国ですが、今でも新たに鏡視下手術に関する前向きランダム化比較試験を行っているということに驚きました。3 ポートの手術はスコープと助手鉗子を手術室看護師が操作しており、そのスコープと助手鉗子もほぼ術者が指示、補正して固定した上で、術者の両手で手術が進んでいく様は、どこことなくロボット手術を思わせるものでした。若干操作の難しそうなお郭清部位もありますが、基本的には、Conventional な手術と同等の手術が出来ていると感じましたし、その後、2-3 日目にも数例を見学しましたが、3 ポートであれ、5 ポートであれ全ての LDG が基本的に 2 時間台で終わっているところを見ても、非常に定型化された素晴らしい内容であることが分かりました。現在はお一人のスタッフの先生が留学中とのことで、上記 3 名の先生がたて年間 400 例程度の胃癌手術を施行しているとのことでした。

Hur 先生には手術中のお話のみならず、実験ラボを見せて頂いたり、基礎実験の内容での discussion もあり、大変有意義な時間を持つことが出来ました。



2 日目の夜には同じく Master class でモンゴルから来ていた先生と私の歓迎会とのことで、韓国ならではの焼肉店でご馳走になりました。日頃の仕事ぶりのこと、日本の NCD

システムのような内容を韓国でも始めようとしている話、はたまた日本の先生方との REGATTA 試験の昔話など、多岐にわたる話題で盛り上がりました。



3 日目の朝には、グループの抄読会があり、そこで私自身の直近の研究内容なども発表させて頂き、多くの貴重なコメントも頂くことができました。3 日目の夕方には Hur 教授

が自ら車でソウル市内までお送り頂き 4 日目以降の KINGCA 参加に備えることとなりました。

4 日目からは KINGCA Week 2023 に参加しました。Symposium6 では Clavien-Dindo 分類で有名な Prof. Clavien の講演をお聞きすることができました。上記の分類のみならず、合併症の予測、軽減のために今でも色々な取り組みを続けておられるお

話に感銘を受けました。また日韓の胃癌手術の現状を Ajou 大学の Prof. Han および大分大学の衛藤先生からのお話があり、最後に Seoul National University の Prof. Han-Kwang Yang から「Textbook outcomes of gastric cancer」というご講演を拝聴出来るという贅沢なセッションでした。。

5 日目も様々なセッションを聞くことが出来ましたが、Video Symposium1

「Updates of Robotic Gastrectomy」はロボット手術を始めたばかりの身ですので、大変有意義で勉強になりました。夕方からはポスターセッションがあり、「The optimal strategy of conversion surgery by considering PD-L1 expression for patients with advanced gastric cancer」というタイトルで発表させて頂きました。拙

い発表ですが、Best Poster Award を頂戴しまして、関係者の皆様にこの場を借りて



御礼申し上げます。

久しぶりの国際学会ということもありますが、活発な英語での議論に多くの inspiration を得ることが出来、今後も折りを見て国際学会へ参加しようという感じました。最後になりましたが、このような機会を与えて頂きました日本胃癌学会の掛地吉弘理事長、国際委員会の竹内裕也委員長をはじめとした委員の皆様、また今回の施設見学を受け入れてくださいました Ajoon 大学病院の職員の皆様に感謝申し上げます。今後も日本胃癌学会の海外学会参加補助制度が継続し、若手学会員が国際的に活躍する一助となることを期待します。